

## 市民座談会

市民のみなさんと滋賀大学の先生や学生さん、そして市職員が現状と課題を整理しながら、持続可能な公共交通機関の将来像やあり方を考えるために、10月21日から4回にわたって実施した市民座談会。

最終回となった1月13日の座談会では、5つのグループに分かれ、路線バスへの対応策や、それを実現するためのキーワードなどを話し合いました。



1月13日(土)に市民交流センターで開催された第4回市民座談会

### 座談会での主な意見

#### ○1グループ

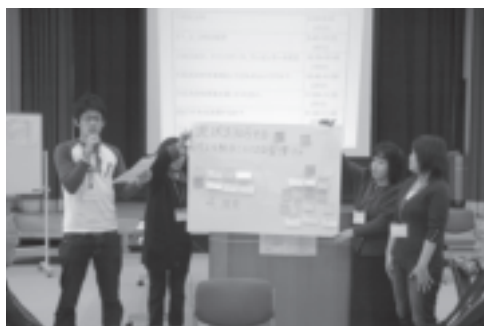
現状のPRとバス利用へのシフト促進・学校協議とルートのリンク・意識啓発が必要なので、路線バスの現状をもっと市民にPRして、マイカー利用からバス利用へのシフトを促している。学校などと協議して、バスルートと通学ルートをリンクさせていっては。

#### ○2グループ

デマンドタクシー・幹線バス・予約状況に合わせてさまざまなルートを行き交うデマンドタクシーと幹線バスを組合せて、病院やショッピングセンターを結ぶ路線をつくっては。デマンドタクシーの対象者を車の免許の無い人、高齢者、しょうがい者に限定しては。

#### ○3グループ

現状報告を徹底し、バスで習慣づけ・空き時間の有効活用を。バスの現状を知らせるということを徹底して、路線バスに乗る習慣をつけるためにも、市民から年会費を集めて、商品券のような感じのバスをつくり配布しては。スクールバスを送迎時以外に路線バスみたいに走らせては。また、あまり乗客のいない時間はデマンド方式にしては。



グループからの意見発表(3グループ)

意見を出して話し合っている様子

#### ○4グループ

コソバクトシティづくりと利用者拡大。中長期的な視点で公共交通が作り出すコンパクトシティづくりを考えて行く必要がある。一方、短期的な視点での利用者拡大の方策も必要であるので、相互に連携をとりながら取組を進めては。

#### ○5グループ

地域主体の取組を。地域住民が運営に参加し、地域主体で負担金を出したり、年間バスをみんなが買って需要を確保するような取組がいいのでは。



知らない言葉やちょっと難しい意見もあったけど、いろいろな意見が出てたんだね。



そうだな、みんなでたくさん意見を出し合って考えていくのがいいことなんだよ。



そうよ、上手に考えて、使えやすくなるといいわね。



でもバスの問題って、長浜に限ったことじゃないでしょ。どこでも同じような課題にぶつかって検討しているんだから、誰かヒントを教えてくださいかな。



滋賀大学と一緒に調査研究を行っているんだから、大学の先生に聞いてみたほうがいいかな。



お前も来年は高校3年生になるんだから、大学の下見をかねて話を聞きに行ってきたらどうだ。

### 自分の問題として、バス問題に向き合うことが大切



永田知佳子 さん  
関西大学4回生

私は卒業研究の関係で今回このプロジェクトに参加させていただきましたが、実際に調査をし、市民座談会に参加するにつれて、想像していた以上にバスを取り巻く現状は厳しく、取り組むのも難しい問題だと知りました。そして、この問題の解決のためには市民一人ひとりが現状を知り、「自分の問題として」バス問題に向き合うことが大切だと感じました。

#### 滋賀大学産業共同研究センター

#### 山崎 一 眞教授



熱心にお話をいただいていますね。私は、今回、長浜市と一緒に公共交通の調査研究を行っている、滋賀大学の山崎です。難しいところもあるので、私から考える上でのポイントなどを少しお話ししましょう。

### なぜ今、考えるのか

収支状況を見てもわかるように、地方のバス交通は時代の流れとともにバス会社だけではとても運営できないのが現状です。また、みんなの税金で広くうすく負担していけばいいじゃないかと思う人もいます。でも、それが、すべてがそれでいいということにはならない。厳しい現実もあります。

#### ○ちよつとしたことで何とかなる

それと、年間6千5百万円の赤字負担と言えは大きな額ですが、一人あたりで考えると年間800円程度の負担で済む額です。今なら、年に4〜5回バスを利用すれば解決する、自分のちよつとした選択で何とかなる問題でもあります。

#### 利用者の拡大

まずはバスをみんなの力で支えることの必要性の検討から

北 詰 恵 一 助教授

(滋賀大学産業共同 研究センター客員研究員)

「長浜市公共交通利用に関するアンケート」からは、公共交通にしか移動手段がない人も、そうでない人もさまざまな目的・理由によって利用されており、バスが「公共交通」としての役割を果たしていることが伺えます。

これらを踏まえた市民座談会では、多様なバス事業改善方策が提案されました。参加者の多くはバスを利用していない人でしたが、みんなが知恵を出し合って議論する方向性が見られたことは、非常に有意義であったと思います。

市内にはさまざまな「公共」物があります。それらは、みんなが今使っているかいないかにかかわらず、必要なものとして市民全体の税金負担によって維持されています。

バス事業も、これらと同じ公共のものと考えていることが可能でしょうか？もちろん、コスト削減の努力は続けるべきですが、公共交通としてのバスを市民全体の力で支えることの必要性について考えてみてはいかがでしょうか。

### 考える上でのポイント

#### ○将来的な問題の解決のために

また、最近が高齢者が関係する事故が増えているそうです。高齢化とともに、今後急増すると予想されるいろいろな問題を前に、公共交通問題の解決の糸口を見つけたいからです。

#### ○自分の問題として考える

学生の感想にもあるように、まずは、「自分の問題として考えること」でしようね。若い人もいずれば高齢者になるわけですし、突然の交通事故や病気で体が不自由になったりもすることもあるので、そういったときの移動手段の確保をどうするかを考える必要があるでしょうね。

#### ○組みあわせて考える

もう一つは、対象や問題の対策を別々に考えず、横断的に「組合せて考えること」がポイントですね。すでに対策をとられている他市町村でも地域の特徴を踏まえながら、その地域にとってベストな組合せを考えているようです。

#### ○出来ることから始める

みんなが少し考え方を変え、行動を変化させることでいろんな課題が解決されるとしたら、素晴らしいことではないでしょうか。そのためにも、まずは、ひとりひとりが自分の出来ることから始めてみてはどうでしょうか。



ご意見・お問い合わせは、市企画政策課企画調整係まで、気軽にお寄せください。お待ちしております。

(〒526-8501 企画政策課企画調整係、TEL 6505、FAX 64111、E-mail: kikaku@city.nagahama.shiga.jp)



なるほど、「自分の問題として」か。確かに今は車が運転できるけど、今後どうなるかわからないしな。



今、いいこと思いついたんで、市役所にメールしておくわ。お父さんも昼間は仕事だから、夜、家に帰ってからか、休日に手紙かメールを出しとけば。まずは、できることから始めないとね。久しぶりにバスに乗ってみようかしら。